



第93回東京箱根間往復大学駅伝競走

往路・復路総合優勝!!

史上初、箱根駅伝3連覇、大学駅伝3冠を同時達成!!



©報知新聞社



第93回東京箱根間往復大学駅伝競走 往路・復路総合優勝!! 史上初、箱根駅伝3連覇、大学駅伝3冠を同時達成!!

2015年の箱根駅伝初優勝で一気に注目され、昨年2度目の優勝で「勢いではなく真の実力」でつかんだ勝利であることを証明した本学体育会陸上競技部(長距離ブロック)。今年はその実力が一時的なものではないことを示す3連覇がかかる上、10月の第28回出雲全日本大学選抜駅伝競走、11月の第48回全日本大学駅伝対校選手権大会も制し、大学駅伝3冠という期待と重圧を背負った大会となりました。往路は5名中3名が箱根駅伝初出場というフレッシュなメンバー構成。三大

駅伝デビュー戦となった1区梶谷瑠哉選手がトップと4秒差でたすきをつなぐと、3年連続2区を走るエースの一角恭志選手が堅実にレースをまとめ、3区秋山雄飛選手が先頭に迫り付き逆転、4区の森田歩希選手がさらにその差を広げました。山上りの5区を託された貞永隆佑選手は、三大駅伝初出場ながら落ち着いたレース運びで往路優勝のゴールテープを切ります。復路は4名が箱根駅伝経験者という磐石の布陣で臨みました。2位に33秒差をつけてスタートした6区は昨年に続き

小野田勇次選手が快走、後続との差も2分8秒に広がります。7区の下田裕太選手は田村選手の激走に応えるかのように後続との差をどんどん広げ、関東インカレハーフマラソンで2年連続優勝の実績を持つ9区の池田生成選手へタスキをリレー。アンカーの安藤悠哉主将は、チームが初優勝したときに走った同区間を最終学年のラストランにふさわしい走りで行き届く地点へ。往路・復路を制する完全優勝で、3年連続3回目の総合優勝を勝ち取り、今シーズン大学駅伝制覇という3冠も達成しました。大会3連覇は大会史上6校目、往路・復路を制しての総合優勝3連覇は80年ぶり2校目、大学駅伝3冠は史上4校目、そして箱根駅伝3連覇と大学駅伝3冠の同時達成は史上初となります。絶対的な実力を備えたチームであることを証明したレースとなり、各選手が地道にコツコツ練習を積み重ね、4年生がチームをまとめ牽引してきた結果が、この快挙へつながりました。たくさんのご声援をありがとうございました。



Message

コツコツ努力を続けていけば
必ず成長する

原 晋 監督

ハラハラドキドキの展開でしたが、箱根駅伝3連覇と大学駅伝3冠を達成でき、素直に嬉しいです。今シーズンはいずれもチーム力で勝った駅伝でした。安藤主将をはじめとする4年生が、よくチームをまとめてくれました。主将が故障で練習に参加できない時期には一色選手や茂木選手らが練習を引っ張り、生活面では寮長の田村選手が後輩の面倒をよく見て、練習面、生活面からリーダーシップを発揮してくれました。上級生がしっかりしているチームはここぞという場面で強いと改めて感じたシーズンでした。また、箱根駅伝を通じて校友が一体感を得られたと思いますし、駅伝全体を通じて多くの輪ができたことを喜ばしく思います。学生の皆さんへは、コツコツ正しい努力を続けていけば、必ず成長するのだということを、選手たちの姿を通じてぜひ実感していただきたいと思います。今後とも皆さまの期待に応えられるよう精進していきますので、引き続き温かいご支援・ご声援をお願いいたします。どうもありがとうございました。

総合成績 11時間4分10秒 第1位

往路 大手町～箱根・芦ノ湖 107.5km 5時間33分45秒 第1位 **復路** 箱根・芦ノ湖～大手町 109.6km 5時間30分25秒 第1位

往路



1区 大手町～鶴見 21.3km

梶谷 瑠哉 選手
教育人間科学部2年
区間4位 1時間04分00秒

初めての駅伝でしたが、前と差を広げずにタスキをつなぐという自分の仕事はしっかりできました。走っているときには、声援がとても力になって、走ることができました。



2区 鶴見～戸塚 23.1km

一色 恭志 選手
経営学部4年
区間3位 1時間07分56秒

3年連続で2区を任せられ、どの辺りに青学の旗があるかも分かっていたおかげで、「あそこまで頑張ろう」と思って、走り抜くことができました。4年間、本当に良い経験ができました。



3区 戸塚～平塚 21.4km

秋山 雄飛 選手 **区間賞**
国際政治経済学部4年
区間1位 1時間03分03秒

最初は前の選手を追いかける形でしたが、沿道の応援に後押しされ気が付けば先頭に立っていました。監督からの「湘南の神になれる」の声でさらに頑張れました。



4区 平塚～小田原 20.9km

森田 歩希 選手
社会情報学部2年
区間2位 1時間03分43秒

良い位置でタスキをつないでくれたので気持ち良く走ることができました。区間2位は悔しいですが、3連覇できたチームの一員として走ることができたことを光栄に思います。



5区 小田原～箱根 20.8km

貞永 隆佑 選手
文学部3年
区間8位 1時間15分03秒

自分の走りで往路優勝を逃すようなことがあってはいけないというプレッシャーが大きい中、ゴールテープを切れてほっとしました。沿道の声援の多さに驚き、励まされました。

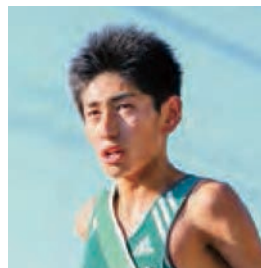
復路



6区 箱根～小田原 20.8km

小野田 勇次 選手
経営学部2年
区間2位 58分48秒

2位と33秒差というプレッシャーがかかる中でスタートでしたが、自分の走りはしっかりでき、復路の流れはつくれたと思います。来年は6区で区間賞を目指したいです。



7区 小田原～平塚 21.3km

田村 和希 選手
経営学部3年
区間11位 1時間05分40秒

直前に体調を崩してしまい、応援してくださった方にもチームにも心配をかけてしまいました。来年度からは最上級生としてチームの先頭に立って引っ張り、4連覇を目指します。



8区 平塚～戸塚 21.4km

下田 裕太 選手 **区間賞**
教育人間科学部3年
区間1位 1時間04分21秒

区間賞が目標でしたが、最後の5kmで失速して去年と同タイムでした。来年は往路を走りたい気持ちもありますが、どの区間でも任せてもらえる選手になれるよう頑張ります。



9区 戸塚～鶴見 23.1km

池田 生成 選手
社会情報学部4年
区間2位 1時間09分55秒

この9区での走りはひたすらきつく、沿道の皆さんの応援があったから前に進むことができ、10区につなげることができました。来年度からはOBとしてチームを応援します。



10区 鶴見～大手町 23.0km

安藤 悠哉 選手
教育人間科学部4年
区間4位 1時間11分41秒

アンカーは2度目ですが、今回は自分たち4年生がつくってきたチームとあって嬉しさも倍増、本当に楽しい23kmでした。2回もゴールテープを切らせてもらい、監督に感謝しています。



僕ら4年生が青春をかけて
引っ張ってきたチーム

安藤 悠哉 主将

2年前に10区を走ったときは余裕がなく、何が何だか分からないまま走り切ったのですが、今回は楽しく走る余裕があり、沿道で応援してくださる方の声もしっかり届きました。さらに1年間最上級生としてチームを引っ張ってきたので、同じ10区でも感慨深いものがありました。主将になって前半の半年間は怪我でチームをリードできず、キャプテンなのに何をやっているんだろうと思い悩むこともありましたが、そんなときは他の4年生のメンバーが支えてくれました。後輩の中にはまだ試合に出場していないけれど、実力のある選手がたくさんいるので、そういう選手にもこれからどんどん活躍してもらいたいです。



選手が最大限に力を発揮するため
準備を徹底してサポート

小関 一輝 主務 理工学部 電気電子工学科

試合や合宿を通して少しずつチームが成長していった結果、去年の先輩たちでも成し遂げられなかった大学駅伝3冠を達成できたことを誇りに思います。主務として心がけていたことは準備の徹底です。一つの大会に向けて必要になることをあらかじめ把握しておくこと、そして「次にこういった行動を選手にうながしておけばスムーズに回る」と先を見越して準備することを心がけました。また、選手の前で弱音を吐いたり、そのときの感情でものを言ったりしないよう気を付けていました。箱根駅伝では沿道で応援してくださる方々の声の大きさに驚くと同時に、「チーム青山」の力を頼もしく感じました。

壮行会 December 13, 2016



優勝報告会・優勝パレード (渋谷) January 7, 2017 (淵野辺) January 29, 2017



壮行会から
パレードまで
関連イベントを開催

2016年12月13日(火)、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂前において「体育会陸上競技部(長距離ブロック)第93回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)出場壮行会」を、2017年1月3日(火)夜にはアイビーホール青学会館にて「報告会」を開催しました。さらに7日(土)にはガウチャー記念礼拝堂前において「優勝報告会」を行い、約1,800名の方々にご参加いただきました。優勝報告会終了後は、渋谷駅ハチ公前広場で、渋谷センター商店街振興組合主催による優勝セレモニーが、渋谷センター街バスケットボールストリートではパレードが行われ、沿道には多くのファンが集まりました。また、1月29日(日)には、一昨年、昨年に引き続き、相模原市大野北地区まちづくり会議と、にこにこ星ふちのべ商店会主催で、淵野辺駅前において、「優勝報告会」と「優勝パレード」(コース：淵野辺駅北口五差路から淵野辺駅入口信号までの約320メートル)が行われました。パレードには、地元の市民など多くの方々に参加され、地域と大学をつなぐイベントとなりました。



Message
2日間にわたって
大きなご声援を
ありがとうございました

三木 義一 学長

応援してくださった皆さん、出場選手を支えてくれた陸上競技部のメンバー、実際に走ってわれわれに感動を与えてくれた選手、彼らを指導して私たちにこれほど楽しい充実感をもたらしてくれた原監督、法人関係者、大学教職員の皆さん、ありがとうございました。今回の「サンキュー大作戦」は大成功でした。また、一昨年、昨年に引き続き、淵野辺で優勝報告会と優勝パレードが行われ、今年はさらに渋谷センター商店街振興組合主催で、渋谷駅ハチ公前広場での優勝セレモニー、渋谷センター街バスケットボールストリートでのパレードも実現できました。今後も陸上競技部のさらなる活躍が期待されますので、引き続き変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。



第28回出雲全日本大学選抜駅伝競走 2年連続 3度目の優勝!

総合成績 2時間10分09秒 第1位

大学駅伝3冠への軌跡



1区 8.0km

鈴木 隼人 選手
総合文化政策学部 1年
区間5位 23分33秒

2区 5.8km

田村 和希 選手 **区間賞**
経営学部3年
区間1位 16分24秒

3区 8.5km

下田 裕太 選手
教育人間科学部3年
区間4位 25分16秒



4区 6.2km

茂木 亮太 選手 **区間新**
総合文化政策学部4年
区間2位 17分39秒



5区 6.4km

安藤 悠哉 選手 **区間賞**
教育人間科学部4年
区間1位 17分43秒



6区 10.2km

一色 恭志 選手
経営学部4年
区間2位 29分34秒



2016年10月10日(月・祝)に開催された、「第28回出雲全日本大学選抜駅伝競走」で、本学チームは2年連続、通算3回目の優勝を果たしました。出雲大社正面鳥居前から出雲ドーム前までの45.1kmを6区間でつなぎました。

1区は、今後の成長と活躍が期待されるルーキーの鈴木隼人選手。緊張で調子が上がらない中でも粘りの走りを見せ、先頭から10秒差の5位でタスキを手渡しました。最短区間の2区に指名された田村和希選手はスタート直後から快調なペースで好走。2.3km付近で先頭に追いつくとペースを上げてレースを引っ張り、3秒差をつけトップでタスキをつなぎます。各校がエース級の選手を配置した3区。起用されたのは下田裕太選手。中盤まで2位チームとの並走を続けながらも、後半引き離されてしまい、トップから23秒差の2位でタスキを4区へ。4区を任された茂木亮太選手は、11秒にまで差を縮めて2位でタスキを渡しました。5区を走るのは主将の安藤悠哉選手。中間点付近でトップに追いつき並走を続けます。そして中継点の手前で相手に競り勝ち、2秒の差をつけ、区間新記録の首位でアンカー・一色恭志選手にタスキをリレー。一色選手は、中盤までは2位の選手と並走したものの、その後は徐々に後続を引き離し、安定したペースを刻み最終区間6区10.2kmを駆け抜け、2位に31秒差をつけてフィニッシュ。2年連続で優勝のゴールテープを切りました。

2016年11月6日(日)に開催された、「秩父宮賜杯 第48回全日本大学駅伝対校選手権大会」では、本学チームが念願の初優勝、4年連続で次回大会のシード権を獲得しました。熱田神宮から伊勢神宮までの106.8km、8区間のコースを走りました。

1区を走るのは下田裕太選手。難コースと気温の急上昇に苦しみ、トップに30秒差の8位で2区へ。2区の田村和希選手は6.5km付近でトップに追いつき、区間賞の走りで先頭に立ちました。3区の吉永竜聖選手は三大駅伝初出場。序盤でトップを奪われたものの粘りの走りで、14秒差の2位でタスキを4区へ。4区では主将の安藤悠哉選手が懸命に追いかけてますが、1分7秒差の2位で5区にタスキを渡しました。5区は、小野田勇次選手。トップとの差を5秒つめ、区間賞の力走でタスキをつなぎます。6区の森田歩希選手は、三大駅伝デビュー戦にもかかわらず終始安定したペースで、先頭との差を37秒にまでつめ2位でタスキをリレー。7区の中村祐紀選手は序盤のオーバーペースが後半に影響し、先頭と49秒差の2位でアンカーにタスキを託しました。アンカーは一色恭志選手。先頭を捉えると一気に抜き去り、最後は2位と56秒差をつけ、同大会初優勝のゴールテープを切りました。なお、区間記録に迫る好走で6区区間賞となった森田選手が、MVP賞を獲得しました。



1区 14.6km

下田 裕太 選手
教育人間科学部3年
区間8位 44分04秒



2区 13.2km

田村 和希 選手 **区間賞**
経営学部3年
区間1位 38分07秒



3区 9.5km

吉永 竜聖 選手
総合文化政策学部3年
区間5位 27分43秒



4区 14.0km

安藤 悠哉 選手
教育人間科学部4年
区間5位 41分30秒



5区 11.6km

小野田 勇次 選手 **区間賞**
経営学部2年
区間1位 35分07秒



6区 12.3km

森田 歩希 選手 **MVP**
社会情報学部2年
区間1位 35分39秒



7区 11.9km

中村 祐紀 選手
国際政治経済学部3年
区間5位 35分17秒



8区 19.7km

一色 恭志 選手
経営学部4年
区間2位 57分48秒

アディダス ジャパン株式会社とのパートナーシップに関する取り組み

駅伝バナー

アディダス ジャパン株式会社と本学は、2013年11月14日(木)、スポーツを通じた教育研究、人材育成、国際交流、文化の振興、そして技術の向上等の実現を目的に、パートナーシップ契約を結び、これまでに各種のスポーツ・教育事業を展開してきました。陸上競技部(中・長距離ブロック)は個別にパートナーシップを結んでいることから、駅伝応援企画として青山キャンパス正門横と相模原キャンパスB棟にバナーを掲出してきました。2017年のチームメッセージは「個の色合わせて緑となれ」です。個々人の高い技量・個性そしてチーム一丸の力強さで、箱根駅伝3連覇、大学駅伝3冠を同時達成してきました。



青山キャンパス 正門横



相模原キャンパス B棟

MeCAMP at 青山学院大学

パートナーシップ契約の活動の一環として、今年度は「adidas projectメンバーとマーケティングにチャレンジ～女性も利用しやすい購買会アディダス コーナーにするには」をテーマに実施しました。取り組んだ学生チーム(法学部法学科4年湯谷莉奈さん、経済学部経済学科4年伊藤拓哉さん、伊藤裕介さん、海住昌紀さん、佐々木絵美さん)の成果として、2016年10月12日(水)に「MeCAMP at 青山学院大学」を開催しました。これは、「バックパックをきっかけとして、青学女子の購買会利用者を増やす」という目的のため、1.ウェブ上での情報拡散を狙った記事の配信 2.ミスコンファイナリストによるSNS発信 3.「MeCAMP at 青山学院大学」を開催し、購買会への誘導促進 4.サークルの代表など情報拡散力のある学生の起用などにより、リニューアルした購買会アディダス コーナーを周知させる、といった学生の提案を実現させたものです。



フィットネスセンターでBalletoneを行ったときの様子



古典派・ロマン派・近現代の音楽の諸問題

広瀬 大介

文学部 比較芸術学科准教授



本ゼミナール(ゼミ)では18世紀後半から現代までに至るクラシック音楽について、社会や歴史、文化などさまざまな切り口から捉え、さらに楽譜を使って音楽そのものを分析しています。ゼミでは学生の自主性を育むことを最も重視しており、3年生と4年生を2人1組にするチューター制度を取り入れています。「アイルランドの音楽について」、「ショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲第8番について」など、3年生は自分の興味のあるテーマを決め、その研究成果を発表する際、4年生のチューターにレジュメの作り方、資料の見方、参考文献のまとめ方、発表の方法などを教えてもらいながら研究に必要なスキルを身に付けていきます。

また、ゼミの司会や行事を担当するゼミ幹事についても、学生全員に責任ある立場を経験してもらうため、月替わりで担当を変えています。本ゼミは学生が自主的に学ぶための方法を身に付ける場だと考えているので、私自身はあまり口を出さず、学生を支える黒子に徹しています。

ゼミでの学びは、比較芸術学科における学びの中心に据えられています。ゼミが面白くなければ大学生生活も味気ないものになってしまうので、授業の雰囲気は明るく保つよう気を配っています。また、ゼミ生には卒論に向けてより追究したいテーマを自ら見つけてもらいたいので、悩んでいる学生に対しては、方向性を助言しています。学生それぞれの自主性や、希望する方向性は最大限に尊重しますが、ゼミでの学生の発表に対して、しっかり問題点は指摘します。

卒業後、学生の多くは音楽業界のみならず、さまざまな職業に就きます。それならばゼミは音楽というツールを通じて、自分で与えられた課題を解決していく力を養う場にしたいと考え、このゼミの進め方にたどり着きました。本学科の学びにおける他の2領域、美術や演劇映像も積極的に学んだ上で、音楽という学問がどのような位置付けにあるべきか、大きな視点から捉える学びの場であってほしいと願っています。



広瀬ゼミ学生
濱田 洋輔さん
文学部
比較芸術学科3年
埼玉県立
松山高等学校出身

高校の部活動で吹奏楽部に入って楽曲解説を読むようになると、楽器を演奏するだけでなく、言葉によって音楽の魅力を表現することに興味を覚えました。そこで比較芸術学科に進み、自分の学びたいことが研究できる広瀬ゼミに入りました。先日引退しましたが、本学の管弦楽団にも所属しコントラバスを演奏していました。運営にも携わり、演奏会パンフレットの解説を執筆した際はゼミで学び培ったスキルが役立ちました。ゼミは学生たちで主体的に進めないと授業が成り立たないので、大変ではありますがその充実しています。自分で選んだテーマを研究していて、目指すべき答えになかなかどり着けないときは苦労もありますが、それを乗り越えて無事に発表を終えたときの達成感はとても大きく、このゼミで良かったと改めて感じます。卒業後は出版など、音楽をはじめとした芸術に関わる職業に就きたいと考えています。

広瀬ゼミは学年の垣根を越えた仲の良さが大きな魅力で、和気あいあいとした雰囲気です。また、ゼミ生全員クラシックに限らず「音楽が好き」という共通点があるので、音楽好きな人はぜひ一緒に広瀬ゼミで学びましょう。

北原照久氏特別講義「コレクションの愉しみ」

2016年10月14日(金)、青山キャンパス11号館1123教室にて、文学部比較芸術学科の授業「芸術鑑賞の方法」に、テレビ東京の番組「開運!なんでも鑑定団」でおなじみの北原照久氏(横浜ブリキのおもちゃ博物館館長ほか・1972年青山学院大学経済学部卒業)をお招きし、「コレクションの愉しみ」と題した特別講義を実施していただきました。まず氏は、ご自身の48年におよぶコレクションの原点が、本学の学生時代に留学したヨーロッパでモノを大切にすることを知り、大変感動したことにあるというお話からスタート。学生たちは自分たちの日常を振り返って、一気に真剣な表情になりました。続いて、髑髏の時計から現代アートまで、自らの感性を信じて集められたコレクションの数々を、愛情を込めてお話しされました。そして、その強い情熱と信念に圧倒されたところで、コレクターは結局「(モノを未来に残すための)一時預かり所」という言葉に、驚きの声が上がりました。最後に氏は、モノを大切にすることで多くの方々と繋がりを持てたご自身の体験にもとづき、より良く生きるための信条や、人生に夢を持つことの大切さを力説されました。このような北原氏の「コレクションの愉しみ」は、学生たちにとって人生観そのものを考えるきっかけともなる、有意義な講義となったに違いありません。(文学部 比較芸術学科准教授 出光 佐千子 記)



Information

映画『カフェ・ヴァルトルフトへようこそ』特別上映会報告

2016年11月26日(土)の午後、青山学院アスタジオにて、映画『カフェ・ヴァルトルフトへようこそ』の特別上映会を行いました。この映画(M・コスメル監督、2015年)は、ドイツ南部の田舎町ベルヒテスガーデンにある古いホテルを舞台に、難民認定を待つ各国の滞在者と従業員との交流を描いたドキュメンタリーで、第11回UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)難民映画祭(2016年9〜10月)で本邦初上映されました。本学は「UNHCR難民映画祭―学校パートナーズ」に参加しており、その活動の一環として、この上映会を自主的に催した次第です。

字幕を担当し、かつ上映会を運営したのは、本学総合文化政策学部2〜3年生5名。彼らは演習授



業「ラボ・アトリエ実習」の一つで、「映像翻訳ラボ」(宮澤淳一ラボ)の今年度の履修生でした。学生たちは夏休みを使って作品を「読解」し、プロ用の機材を用いて日本語字幕を共同作成しました(指導協力:日本映像翻訳アカデミー)。当日は玉川透氏(朝日新聞・元ベルリン支局長)に作品の背景をご説明いただき、学内外からの約60名の観客の皆さんと作品を楽しみつつ、難民問題への理解を深めることができました。(総合文化政策学部 教授 宮澤 淳一 記)



作品説明される玉川透氏 携わったラボの学生たちと

撮影:写真研究部 法学部1年 小倉 久輝さん

EDIM'16 : 教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウム2016 開催報告

2016年12月10日(土)に情報メディアセンター(AIM)は、青山キャンパス14号館大会議室でEDIM'16「教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウム2016」を開催しました。AIMは教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウムを2014年から毎年主催しています。今回のシンポジウムには270名以上が参加し、学内にとどまらず学外でも多くの関心を集めました。

当日は、AIMによる今回のテーマ「映える／POP UP」の解説と本学院の山本与志春常務理事の開会挨拶から始まり、5つの講演と全体討論が行われました。東京藝術大学大学院の佐藤雅彦教授による特別講演では、TVのCMや番組の制作実例が豊富に紹介され、デ

ザイン思考の教育に関して興味深いお話が展開されました。また、本学院の高等部および中等部での情報メディアを活用した教育実践の報告、日本マイクロソフト株式会社の小野田哲也氏による社会の変化にともなう情報

教育の重要性に関する提言もAIMの果たすべき役割を再認識する貴重な機会となりました。(情報メディアセンター(AIM)副所長・法学部准教授 伊藤 敬也 記)

講演テーマと登壇者

1. こうすると見えてくる／こうすると伝わる／こうすると分かってしまう
東京藝術大学大学院映像研究科教授 佐藤 雅彦氏
2. 主体性を引き出すキャリアデザイン教育としての産学協同PBL
情報メディアセンター助教 湯浅 巨敏氏
3. ICT機器を用いた教育について生徒・教員はどう思っているのか
青山学院高等部情報科教員 中野 秀太郎氏
4. iPad×中学生×試行錯誤
青山学院中等部社会科教諭 三好 文子氏
青山学院中等部理科教諭 鈴木 知明氏
5. Digital Transformation in Education
日本マイクロソフト株式会社文教本部長 小野田 哲也氏
6. 考える時間
情報メディアセンター副所長 伊藤 敬也氏(司会)



講演される佐藤雅彦氏

岡山県総社市インターンシップ報告

本学は、2014年に岡山県総社市と英語特区等での包括連携協定(教育やまちづくりをはじめとする連携協力)を締結し、さまざまな取り組みを進めています。この一環として、総社市のインターンシップに参加した、学生の報告記事を掲載します。



左から片岡岡一総社市長、降矢さん、三木義一学長

多くを学んだインターンシップ

ふるや
降矢 晶子さん
文学部 フランス文学科3年
北海道札幌開成高等学校出身

以前から公務員の仕事内容に興味を持ち、祖父母が岡山県に住んでいるということもあり、総社市役所のインターンシップに応募しました。2016年8月29日(月)〜9月2日(金)と、9月5日(月)〜9日(金)の合

計10日間で、秘書室と長寿介護課の2つの部署にお世話になり、総社市に政策提言書を提出するのが最終的な目標でした。

まず担当する業務を把握することに専念しました。最初は何について政策提言をすれば良いのか全く分かりませんでしたが、市役所の方が業務に関する疑問や、もっと深く知りたいことについてとても丁寧に教えてくださり、自分なりに制度の改善点や解決策を考えることができたと思います。

インターンシップを通して、受身の姿勢ではなく自分から質問をしたり考えたりして、積極的に取り組むことが大事なのだと強く感じ、自分にとって多くを学び、良い経験になりました。

何かを学び取ろうという姿勢に、市役所の方は真摯に応えてくださいます。少しでも市役所や公務員の仕事に興味があればぜひ参加してみたいと思います。

卒業・修了、進級および成績に関する日程

日付	内容	備考
3月 9日(木)10時30分～	修了決定者発表・成績通知書開示 (専門職大学院)	卒業・修了決定者の成績通知書は、3月25日(土)まで学生ポータル上で閲覧 できます。
3月11日(土)10時30分～	卒業決定者発表 成績通知書開示(4年次生・大学院生)	
3月11日(土)	保証人宛成績通知書発送	卒業決定者には発送されません。
3月11日(土)13時00分～	修了決定者発表(大学院)	
3月11日(土)13時30分～	成績通知書開示(1～3年次生)	
	進級決定者発表	進級条件が設定されている学年のみ
	卒業見込可能者発表	理工学部・社会情報学部3年次生のみ
3月25日(土)	学位授与式	所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。 詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。 http://www.aoyama.ac.jp/life/schedule/graduation_ceremony_03.html 3月の卒業発表後、保証人の方(専門職大学院は除く)宛にご案内状を発送いたします。

※詳細は学生ポータルや、本学ウェブサイトを参照してください。

春期休業期間中の窓口案内 (2/2(木)～3/31(金))



詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。
<http://www.aoyama.ac.jp/life/>

2017年度 学事暦(学部)

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は学部・学科ごとに行います。
日時・場所の詳細は学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期		
4/1(土)	入学式	
4/1(土)～6(木)	オリエンテーション、 履修ガイダンス、健康診断*	
4/7(金)	前期授業開始	
4/7(金)～13(木)	新入生歓迎礼拝	
4/15(土)	履修登録最終日	
4/17(月)	イースター礼拝	
4/18(火)	イースター礼拝 (タ礼拝・青山キャンパス)	
4/29(土・祝)	授業実施日(昭和の日)(水曜日の授業を実施)	
5/22(月)～ 26(金)	チャペル・ウィーク(前期)	
5/24(水)	ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝	
6/5(月)	ペンテコステ礼拝	
6/10(土)	アドバイザー・グループ・デー (青山・相模原キャンパスとも授業実施)	
7/17(月・祝)	授業実施日(海の日)(木曜日の授業を実施)	
7/25(火)	補講日(青山・相模原キャンパスとも)	
7/26(水)～8/2(水)	前期定期試験期間	
8/2(水)～4(金)	清里サマー・カレッジ	
8/3(木)～9/13(水)	夏期休業期間	
9/30(土)	9月学位授与式	

※ 青字 は、宗教行事です。
※ 大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。本学ウェブサイトや「大学院要覧」等を参照してください。
※ 健康診断は青山キャンパス4/1(土)～6(木)(ただし4/2(日)を除く、相模原キャンパス4/3(月)～6(木)に実施します。

後期		
9/14(木)	後期授業開始(土曜日の授業を実施)	
9/18(月・祝)	授業実施日(敬老の日)	
10/7(土)、8(日)	相模原祭期間(7(土)は相模原キャンパスのみ休講)	
10/16(月)～20(金)	チャペル・ウィーク(後期)	
10/30(月)～11/2(木)	宗教改革記念礼拝	
11/3(金・祝)～5(日)	青山祭期間(青山・相模原キャンパスとも休講)	
11/16(木)	創立記念礼拝 授業実施日(創立記念日)	
12/1(金)	クリスマス・ツリー点火祭	
12/19(火)	クリスマス礼拝 (青山キャンパス)	
12/21(木)	クリスマス礼拝 (相模原キャンパス)	
12/23(土・祝)	授業実施日(天皇誕生日)	
12/25(月)～2018年1/9(火)	冬期休業期間	
1/10(水)	後期授業再開	
1/12(金)～14(日)	大学入試センター試験および同準備日(12(金)、13(土)は青山キャンパスのみ休講)	
1/12(金)、17(水)、23(火)	補講日(相模原キャンパス)	
1/17(水)、23(火)	補講日(青山キャンパス)	
1/24(水)～1/31(水)	後期定期試験期間	
3/24(土)	学位授与式	
	卒業礼拝(青山キャンパス)	

2017年度 学費納付のご案内(学部・大学院)

2017年度在学生の学費(授業料、在籍基本料、施設設備料、教育活動料および諸会費、学会費)納付は、前期・後期とも期限に遅れないようにしてください。

納付のスケジュール

振込依頼書発送 4/12(水)予定
前期分・前後期分一括学費納入期限 5/1(月)
後期分学費納入期限 10/2(月)

納付にあたって

■振込依頼書は、前期分・後期分・前後期分一括納入の3種類を送付します。教職課程・諸資格課程料の加算などによって後期分の納入金額が変更となる場合を除き、改めて送付しませんので、4月に送付する振込依頼書を保管の上、振込手続きをしてください。
■学部生の振込依頼書は、申し出がない限り、原則として保証人宛に送付します。学生本人宛に送付先変更を希望する場合は、学生生活部学費・奨学金課(青山キャンパス)・学生生活課(相模原キャンパス)に「学費振込用紙送付先変更届」を提出してください。
■入金確認のため、大学より送付する振込依頼書を用いて、金融機関窓口で納付してください(ATM・インターネットバンキングを利用される場合は、同封の案内文に記載されている注意書きに従って手続きしてください)。なお、振込手続きの際、公的機関発行の身分証明書等の提示が必要となる場合があります。詳細は各金融機関窓口にお尋ねください。
■最終年次において留年した場合、履修登録単位数によって学費が異な

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・大学院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。本学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することがないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。
【特徴】
1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
3. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院大学に振り込まれます。

2016年度 青山学院学術賞

「青山学院学術賞」は、専門分野の研究において学術の進展に寄与すると認められる業績を発表した青山学院の専任教員に授与される賞です。2016年度は、大学からは以下の6名が受賞しました。

■ 文学部 英米文学科 DABBS, Thomas W. 教授
[著書] *Genesis in Japan : The Bible beyond Christianity* (Texas Review Press 2013.8)
■ 経済学部 遠藤 光暁 教授
[著書] 『元代音研究 ―「脈詠」ペルシャ語訳による―』(青山学院大学経済研究所研究叢書8)(汲古書院 2016.3)

ります。履修登録後に学費を算出するため、振込依頼書の発送および納入期限は下表の通り予定しています。

	前 期		後 期	
	発送予定	納入期限	発送予定	納入期限
学 部 生	5/19(金)	6/2(金)	10/18(水)	11/10(金)
大学院生	5/26(金)	6/9(金)	10/25(水)	11/10(金)

相談・問い合わせ先

各種申請は、学生本人が直接窓口へ来るようにしてください。個人情報取り扱いなどの関係上、電話では承れません。春期休業期間中の窓口開室日時は本学ウェブサイトをご覧ください。

①	保証人住所の変更 在学生住所の変更	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課 学生生活課
②	振込依頼書の送付先変更・再発行 学費の延納	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学費・奨学金課 学生生活課
③	振込手続き、学費一覧表	青山キャンパス	庶務部 経理課
④	休学・退学	〈学部〉 青山キャンパス 相模原キャンパス 〈大学院〉 青山キャンパス 大学院生:学務部 教務課 専門職大学院生:学務部専門職大学院教務課 相模原キャンパス 学務課	学務部 教務課 学務課

4. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。
【利用資格】
本学学部生・大学院生の保護者、または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。
【提携銀行】
・みずほ銀行 渋谷中央支店ローン担当係 TEL:03-3462-0313
・三井住友銀行 全国の支店 ・三菱東京UFJ銀行 全国の支店
※銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に問い合わせてください。

■ 国際政治経済学部 国際政治学科 林 載桓 准教授
[著書] 『人民解放軍と中国政治 ―文化大革命から鄧小平へ―』(名古屋大学出版会 2014.11)
■ 総合文化政策学部 総合文化政策学科 沖本 幸子 准教授
[著書] 『乱舞の中世 ―白拍子・乱拍子・猿楽―』(吉川弘文館 2016.3)
■ 理工学部 機械創造工学科 米山 聡 教授
[体系的研究] 光学的ひずみ測定法の開発とその応用に関する研究
■ 社会情報学部 社会情報学科 苅宿 俊文 教授
[体系的研究] ワークショップを対象とした学習環境デザイン研究の体系的な成果

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。国内56カ所・海外19カ所の地域支部の他、各学部・学科の同窓会や、職種別団体・部活動OB団体等の参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。ぜひ積極的に校友会各組織にご参加ください。

なお、校友会に関する事務局は「青山学院校友センター」となります。校友センターは卒業生の住所など基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結び窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友センターへお知らせください。校友センターに寄せられた個人情報「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」ののっとり厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関わることにのみ活用されます。

青山学院の広報誌 卒業後『AGU NEWS』の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』

住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。

〔住所変更・発送に関する問い合わせ先〕

青山学院校友センター TEL : 03-3409-6645 E-mail : agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』

1916年創刊の青山学院公式機関誌。法人および幼稚園から大学・大学院までの青山学院の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円(送料含む)です。

〔定期購読に関する問い合わせ先〕 青山学院購買会 TEL : 03-3409-4401

2017年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験報告

2017年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験はすべての試験が終了し、志願者数は、一般入学試験が47,751名(前年度46,537名)、大学入試センター試験利用入学試験は13,215名(前年度13,313名)で、合計60,966名(前年度59,850名)でした。

26年ぶりに総志願者数が60,000名を超え、最も多い試験日で6,685名の受験者が青山キャンパスに来校しました。本学学生団体(吹奏楽バトントワリング部、キャンパスツアーガイドボランティア、ボランティアセンター学生スタッフ)や入試アシスタント学生が、多くの受験者の正門入場や試験室への適切な誘導、試験室の監督補助などを行い、学生の大きな協力を得て2017年度一般入学試験は無事に終了しました。



正門で受験票を確認する「吹奏楽/バトントワリング部」の学生たち

アンケートご協力をお願い

青山学院大学では、在学生の保証人の方々に本学の取り組みや在学生の活躍をお伝えるために本誌を制作しております。皆さまのご意見を今後の広報誌制作に生かすべく、アンケート調査を行っています。つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。3月31日(金)までにご回答いただいた方の中から抽選で30名に、青学オリジナルグッズをプレゼントいたします!(当選者の発表はグッズの発送をもって代えさせていただきます。)

ココサス(付箋)



アンケート回答はこちら

Club & Circle 34 自動車部

自慢の結束力で全日本杯優勝へ

私たち自動車部は、ジムカーナ、ダートトライアル、フィギュアの合計成績によって決まる総合杯を懸け、全関東学生自動車運転競技選手権大会や全日本学生自動車運転競技選手権大会などで競っています。

週2回の活動では、緑が丘グラウンドに併設されたガレージを拠点とし、車輛製作や駐車・転回の練習をしています。また週末にはサーキットへ車輛を持ち込んで練習に励み、互いに切磋琢磨しています。

競技ごとの特色は大きく異なりますが、運転技術の正確さとタイムを競い合うという点では一致しています。加えて、知識と経験に基づく車輛作りや運転技術の向上において、区間ごとのタイムや映像から走り方を比較する分析力や、短時間でセッティングを変更する整備能力など、団体としての結束力が勝敗を分ける大きなカギとなります。

2015年度は男子が全日本学生ジムカーナ選手権大会および全日本学生自動車連盟年間総合杯で、2016年度は女子が全日本学生ダートトライアル選手権大会と全日本学生自動車運転競技選手権大会でそれぞれ団体の優勝しました。関係各位の支援あってこそその結果ではありますが、先輩後輩の立場を越えて意見を出し合える環境が実を結んでいると感じています。

(主将：理工学部 機械創造工学科3年 奥山 将 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2017青山学院大学

●バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。

●確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**



発行元：青山学院大学 政策・企画部
TEL : 03-3409-8159

●2017年2月28日発行●